

# BIG FOOT'S BACK!

– GAME'S OVER.–

Saturday morning the boys decided to play the prank again. Rod dressed in the costume and waited in the woods for tourists. He didn't have to wait long. There were so many tourists around that day that Rod must have scared more than one-hundred people( \* 1) by mid-afternoon.

One man was not scared at all. His name was Constable Rich, the top police officer in the town where the boys lived. The moment Rod stopped in the forest to meet Carl; he saw Constable Rich standing there with his hand on Carl's shoulder.

'The game's over ( \* 2),' Rod thought. 'And we're in a lot of trouble!'

Constable Rich's face didn't look angry at all. It looked happy and expressed the fact that he was proud of himself for catching the pranksters. Nevertheless, until he spoke, both boys had been shaking in their boots ( \* 3).

But then a funny thing happened...

Constable Rich didn't take the boys to the police station that day. He didn't bring the boys back to their parents either. He didn't even scold (V1) them. Instead, with his low, authoritative (V2) voice he congratulated the boys.

‘Well done, well done,’ he said. ‘The mayor hasn’t been this happy in years!’ He told them.

Rod managed a weak, uncertain: ‘Why?’

Constable Rich said, ‘because this town hasn’t seen so many tourists in at least twenty-five years! Keep it up boys… keep it up ( \* 4)!’ And then to the relief of the boys he walked away. Rod and Carl looked at each other and both of them had a look of confusion (V3) on their faces. They shook their heads. Then they went home and watched TV.



## TEXT NOTES

### (\*1) Rod must have scared more than one-hundred people

〈must + have + 過去分詞〉の形で、「～だったに違いない」と言えます。‘must’には助動詞で、「～に違いない」という推量の意味があり、話者が強く確信しているときに使えます。後に来る動詞の時制が過去であるということを示すために‘have’と過去分詞を続けて、完了形にするのです。例えば、自分が食べるつもりで残しておいたケーキがなくなっていて、「きっと妹が食べてしまったんだ」と言いたければ、次のように言えます。

- There is no cake left. My sister must have eaten it.

「ケーキが残ってない。きっと妹が食べたんだ。」

主語の後に、「～にちがいない」という‘must’と、「食べてしまった」という完了形の‘have eaten’が続いていますね。

現在のことを確信しているときには、〈must + 動詞の原形〉で表現でき、次のように言えます。

- You must be tired. 「あなたはきっと疲れているのでしょう。」

これは、疲れた顔をしていたり、あくびを何度もしていたりなど、根拠があって話者が確信を持っている場合に使えます。

### (\*2) The game's over

ゲームオーバーとカタカナでも使うことがありますね。‘over’は「終わって、終了して」という意味も持ちます。ここでの‘game's’は‘game is’の短縮形です。〈be 動詞 + over〉で、「～が終わって」と表わせます。例えば、以下のように言えます。

- By the time I arrived the meeting was over.

「私が着くまでに、会議は終わってしまっていた。」

- ・ It is over. 「もうおしまいだ。」

### (＊3) shaking in their boots

‘shake’ には「震える、動揺させる」などの意味があり、‘shake in one’s boots’ で、「身震いする、びくびくする、ひどく怖がる」という意味になります。‘boots’ は履く「ブーツ」のことですね。足先から全身ガタガタ震える様子を想像するとよいでしょう。履く「くつ」、‘shoes’ を使って、‘shake in one’s shoes’ と言っても、同様の意味になります。また、‘earthquake’ 「地震」に入っている、「震える」という意味の動詞 ‘quake’ を使って、‘quake in one’s boots’、‘quake in one’s shoes’ のように言うこともできます。以下、例文です。

- ・ Mary was shaking in her shoes at the thought of facing her boss.

「メアリーは部長に会うことを考えただけで身震いがした。」

### (＊4) keep it up

‘keep’ の基本的な意味は、「保つ」です。‘up’ の基本的意味は「上に、高い方に」、で、転じて「活気付いて、進んで、盛んで」などという意味も持つようになっています。句動詞 ‘keep up’ には、「(活動などを)続ける、持続する」という意味があります。この ‘keep up’ を使って、うまく行っている場合の励ましの言葉として、

- ・ Keep up the good work. 「その調子でがんばってください。」

のように言うことができます。‘Keep it up.’ は直訳すると、「それを続けて！」となり、‘Keep up the good work.’ と同様に、「その調子でがんばって。」と激励したり応援したりするときに使えます。

## VOCABULARY

### (V1) scold

「しかる、小言を言う、がみがみ言う」。相手に対していらいらしたり、かんしゃくを起こしたりしてしかる場合に用い、声を上げてしかることを表わします。scold の用法は、

- His father scolded him for breaking his favorite vase.

「父親は大事なつぼを壊したという理由で彼をしかった。」

- My mother scolded me because I left the door open.

「お母さんは私がドアを開けっ放しにしていたので怒りました。」

のように、〈scold + 人 + for ~〉または、〈scold + 人 + because ~〉の形で、「~の理由で(人を)しかる」と言えます。

### (V2) authoritative

‘low’「低い」に続いていることと、後ろが‘voice’「声」であることから、‘low’と似たような意味で、‘voice’を修飾する言葉だということを推測しましょう。

‘authoritative’には、「断固とした、有無を言わせない、権限のある」という意味があります。きっぱりとした態度、敬意を集めている様子があらわれる言葉です。

- an authoritative manner「高圧的な態度」
- an authoritative tone of voice「有無を言わせぬ声の調子」

のように使われます。‘authoritative’は、名詞‘authority’「権力、影響力」の形容詞です。

### (V3) confusion

「混同、混乱、当惑」などの意味があります。「理解ができない、はっきりしなくて困った」という状態を表します。この‘confusion’は名詞で、この動詞は、‘confuse’です。

「困惑させる、混乱させる」という意味です。相手の話すことがどうもつかめず、困ってしまったときには、次のように言えます。

- ・ You're confusing me.

「あなたは私を混乱させている→あなたの言っていることが理解できず困っています。」

